

平成29年度 船員災害疾病発生状況【災害編】①

今週と来週で、昨年度の船員災害について紹介します。
※29年度の数値は、速報値です。
▽死傷災害発生人数(死亡および行方不明者数)

船種	29年度	28年度
外内航船	196人(10人)	204人(12人)
漁船	299人(13人)	328人(15人)
※その他	73人(11人)	77人(7人)
合計	568人(34人)	609人(34人)

(※官公庁署所属船および起重機船などの作業船)
災害発生状況は、前年度より41人減、死亡および行方不明者は前年度同数となりました。
▽死傷災害中、発生数の多い様態

- 「転倒」……………102人(18%)
 - 「はさまれ」……………101人(18%)
 - 「動作の反動・無理な動作」……………90人(16%)
 - 「転落・墜落」……………54人(10%)
 - 「飛来・落下」……………52人(9%)
- 上位を占める災害発生時の様態は、一部順位に変動(2位と3位)はありましたが、前年度と同じでした。
災害発生時の様態別の主な原因は次の通り。

- ▼「転倒」の主な原因
- ①つまずき・滑りなど
(主な起因:「雨や水などでぬれた甲板上や通路など」で滑ったり、「用具・工具、漁具・漁網や積み荷など」や「船体構造物」につまずく)
 - ②波浪に起因するもの

【災害防止対策】
滑りにくい底の靴を履く、床面に滑り止めテープを貼る等の対策や、ロープなどのつまずきの原因になりやすい物の整理整頓を普段から行い、災害を未然に防ぎましょう

- ▼「はさまれ」の主な原因
- ①甲板装置・魚ろう装置によるもの
(主な起因:係船作業中に係船索とローラーに手、指をはさむ)
 - ②用具・工具によるもの

【災害防止対策】
船内設備、作業方法等について見直しましょう
▽死亡および行方不明者34人中、発生数の多い様態

「海中転落」……………	15人(44%)
「海難」……………	5人(15%)

なお海中転落は、夜間や単独での作業時、上陸後の帰船時など、人が見ていないときに多く発生しており、死亡率が79%(19人中15人)と極めて高い。